

ふれあいの里グループホームたく遊
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	093600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 1階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	令和7年3月12日	評価結果市町村受理日	令和7年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・御家族や穂本人の意向や要望や本人状況に合わせたプランを立案し適切なサービスが提供出来るよう心掛けている
- ・季節や馴染みの行事や誕生日等のイベントは手作りにこだわって取り組んでいる
- ・誕生日では御本人や御家族に好みの食事やケーキの種類を選んで頂き昼食のメニューを変更し手作りや出前等喜んで頂けるよう工夫している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅や商業施設に程近い距離にある開設5年目を迎えた2ユニットの事業所である。町内会との相互交流については、感染症対策により今後に向けた取り組みとしているが、良好な関係性が保たれている。運営推進会議では協議事項に中心課題を提示し、メンバーから具体的な意見や感想が活発に出ている。入浴時に災害が発生した場合の緊急避難対応用品(ポンチョ)を職員が手作りした報告では更なる工夫への意見等も得られ、職員の視点も重ね改良している。今年度も笑顔あふれる遊び心満載のレクリエーションを企画し、O×クイズや歌詞に合わせたペープサイト、歌手に変装したユニークな職員の姿などで盛り上がり、夏祭りや敬老会には家族も招待し一緒に過ごす時間が持たれている。本人の興味にそう将棋や本、DVD視聴、職員手作りのペットボトルキャップパズルなど、したい事が楽しめる環境も整えている。行事食などの支援も多彩で、新年餅つき大会は、利用者が振り鉢巻き割烹着姿で杵を振るい、慣れた手付きで餅を形成するなど食文化を楽しんでいる。アセスメントやモニタリングを丁寧に実施したケアマネジメントにも優れており、職員は、利用者の人権や人格を尊重し、寄り添い、温かく家庭的な雰囲気を大切に支援していきたいと述べている。管理者と職員が力を合わせ、理念に則り、心穏やかな暮らしをサポートしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットと玄関前エレベーターのドア上に理念を掲示し月初めの目標に職員が交代で理念の文言を組み込み周知している	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ3項目の理念を標榜している。パンフレットに明示し、事業所内要所へ掲示している。月ごとに理念を踏まえた目標を掲げ、毎日、業務日誌に記載し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会長や東地域包括支援センター、介護福祉課の職員や御家族に参加して頂き交流している	町内会に加入し、運営推進会議に町内会長の出席の協力や拓勇東町内会報と防災カレンダーが届いている。今年度、ボランティアの受け入れを行っている。町内会、春の清掃活動の参加に向け準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会長や東地域包括支援センター、介護福祉課の職員や御家族に参加して頂き交流している 東地域包括センターの地域会議のケア会議に参加の意見交換している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や事故報告、避難訓練内容の報告、年間行事等を協議事項とし御意見をサービス向上に活かしている	市介護福祉課、町内会長、地域包括支援センター、家族の参加を得て定期的に開催している。利用者状況及び活動報告、事故報告、協議事項としての中心課題等を議事に定め、意見交換している。構成員からの助言・要望、運営についての意見も積極的に上がっており、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区分変更や更新等での認定調査や運営推進会議に参加して頂き協力関係が築けるよう取り組んでいる	市の介護福祉課担当者とは、必要書類の提出や運営推進会議で助言等を得ている。大本の運営上の制度に係る案件は法人本部やエリアマネージャーが担当部署と連携している。市内GH連絡会に出席し研修等に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3カ月に1回の担当者会議、6カ月に1回の全職員対象の研修(事例検討)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り御本人や御家族の思いに沿ったケアに努めている	身体拘束等の適正化のための指針を定め、定期に不適切ケア防止(身体拘束適正化・虐待防止)委員会を開催し、事案要素の検討と予防・防止に関する取り組みを協議し適正化に努めている。年2回これらに係る内部研修を実施している。見守りセンサーを設置し出入りを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回の担当者会議6カ月に1回の全職員対象の研修(事例検討)を実施している カンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要としている入居者がいない為積極的には取り組んでいない 今後必要に合わせ対応できるよう努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に口頭説明及び契約書を持ち帰り御読み頂くよう御伝えし同意頂いている 入居時のリスク説明も行い同意頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン変更時には必ず御本人や御家族に意向を伺いプランに反映させ面会時や電話でお話し出来る時には本人状況を御説明し意見や意向を伺い日頃のケアや運営に取り組めるよう努めている	利用者の「帰りたい」の意見には言葉を制止せず、出身を同じくする他のユニット利用者との交流や、「外で過ごしたい」の意見には、散歩や畑、外掃除等を介護計画に盛り込み反映させている。家族からは、電話や面会等の接する機会や運営推進会議にて意見を得て運営や支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案時には担当職員や他職員の意見を計画作成担当者が取りまとめ会議参加者で検討し各ユニットで共有している	毎月、役職会議と各ユニット会議を開催している。管理者は常日頃より各ユニット計画作成担当者からの助言や、職員の意見や情報を取り入れ調整している。職員は入浴時の緊急避難対応の用品手作りなど、アイデアを出し合い作成している。新人職員のOJTでは、新人業務日誌を活用し担当職員と意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心に繋がるよう資格所得等適切に取り組めるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の適した職員に適した課題で研修に取り組めるような設定をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者は電話やオンライン研修等交流する機会があり取り組んでいるが他職員は積極的には参加出来ていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ず御本人や御家族と面談し各自に要望や意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人や御家族の不安や困り事を共有しながら御本人のサポートが出来るよう心掛け 面会時や電話等でも御相談頂けるよ努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向、要望を伺い御本人や御家族の双方が納得されるよう提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事には取り組んで頂き一方的ではなく共に考え提案し自己決定の場面が出来るよう心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下や認知状況での危険リスク等事前に御家族の精神的負担が軽減されるよう心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的な取り組みは出来ていないが面会時は居室で15分程制限の中過ぎて頂き電話の取次ぎやお手紙の内容を伝える等楽しい時間が感じられるよう努めている	面会は居室にて感染防止対策を講じ実施している。家族以外に、教え子であった知人の訪問を受けている利用者もいる。年賀状や海外の親族からエメールや写真が届いた際も思慕のひと時を共にしている。家族との電話の取り次ぎや携帯電話を所持している利用者の通話環境をサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩さずお互い無理せず円滑な関係が保てるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必要に合わせ退去先施設の支援会議に参加し御家族に不安の無いよう相談、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを尊重し自己決定を促し希望の把握が出来るよう努めている	利用者から直接聞くことを第一義にし、支援場面で本人の意思が尊重されその人らしく過ごせるよう、希望や意向の把握に努めている。思いの表出が難しい利用者へは支援場面での現状や困難な状況を紐解き、本人本位となる環境を検討し整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者担当者や御家族から自宅での生活状況を伺い出来ることは日々の生活に組み込めるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のアセスメントや会話、新進状況を要観察し都度変化に合わせたケアが行えるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の意見を伺い現心身状況に合わせたケアを立案出来るようカンファレンス会議や担当者会議で意見交換し介護計画作成出来るよう努めている	アセスメントは随時、加筆等を行い備考欄には新たな計画の判断要素も記載し介護計画策定時に整理し、モニタリングも毎月実施し、精度を高めている。本人、家族の意見は元より、医療関係者の意見も適宜反映させ、現状にそった介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や業務日誌、日々の申し送りや申し送りノート等を活用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度本人状況に合わせたサービスが出来るよう立案し取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的には取り組めていないが機会があれば検討していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診対応を行い検査結果や服薬変更等御家族に報告し月2回の訪問看護にも相談し指示を仰いでいる	協力医療機関と、それ以外の医療機関への通院受診を支援し、家族の協力も得ている。歯科は必要時の訪問診療と、月に1度、口腔衛生管理に係る指導や助言を得ている。月に2回看護師が訪問している。受診後は看護記録に記載し家族へ報告している。	

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療機関や調剤薬局の薬剤師と相談し合える体制であり情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書や入院情報書類を作成し本人状況を共有し退院時にも本人状況説明に御家族に了承頂いて参加させて頂き相談出来る環境作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者時契約の際に重篤化した時の説明を行い日々の生活の中での体調の変化や対応、予測される状況もお伝えし事業所で出来る対応を御説明している	利用契約時に「ご利用様が重度化した場合に係る指針」を説明し同意を得ている。医師の判断に基づき、関係者間で今後の方針を取り決めている。病院への移行支援や、家族の意向に応え、医師の助言や指示を仰ぎつつ、事業所で生活可能なぎりぎりの状態までの支援に尽力している。	病院や訪問看護ステーションと連携を図り、看取りに関するWEB研修に参加したいとの意向を示している、その実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、火災訓練を入居者と共に実施している	R6年7月日中・入浴場面想定を含んだ火災避難訓練、9月シェイクアウト訓練、12月夜間想定・火災避難訓練を行った。地域住民の参加は見送っている。利用者個々の防災カード、災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定し、計画に則った訓練(研修)を実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いに反した声掛けをしない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損なわない対応に努めている	不適切ケア委員会では、利用者の困難な事例や予兆となる行動等の事例を抽出し、より良い接遇を検討するなど尊厳に配慮している。個人情報には主にシステム管理し、紙媒体の書類と共に事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で御本人の思いや意向を伺い自己決定出来るよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務体制によって職員側の動きになっている様子も見られている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の意向も伺いながら出来ることはしても衣類や整容に清潔感が感じられるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや下準備や茶わん拭きや後片付け掃除等に出来る方には参加して頂き関わりを楽しみや、やしがいが感じられるよう支援している	月2回パンの移動販売で好みの品を選んでいる。誕生日は本人のリクエストに応え行事食も多彩である。バイキングや海鮮丼のテイクアウトも好評である。利用者は食事作業の可能な事に携わり、新年の餅つきなども慣れた手付きで参加するなど食文化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てている個々の摂取状況に合わせた形態や盛り付けや味付けで摂取されやすいよう工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している 自身で出来る方にはしてもらい 仕上げ磨きが必要な方や歯磨きが難しい方や口腔スポンジを使用する等して残渣物が口腔内に残らない様支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本1日1度はトイレに座っての排泄を促しての対応を心掛け尿意便意の確認を行い排泄誘導、排泄状況確認を記録し排泄間隔に把握に努めている	自立の方以外は、定時誘導や様子を察して声かけやトイレ誘導している。要介護度の高い重度化の利用者もベッド上の交換のみとせず、時間帯を選定しトイレでの排泄を支援している。衛生用品のアセスメントも行い、状態に即した物を使用している。排便はシステム記録以外に紙媒体でも記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整を行うと共に牛乳やヨーグルトや乳飲料を提供する等し、腹圧の掛けられない入居者は腹部や肛門まわりのマッサージを実施する等し対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが御本人に入浴である事伝え強い拒否が見られた時には曜日を変更し入浴調整する等して週2回を入浴して頂くよう工夫している無理せず清拭での対応も行っている	本人の入浴時間の習慣に応え、利用開始時から午後3時以降に支援する利用者もいる。時間や日にちをずらしたり、入浴が苦手な週2回入浴が難しい場合は全清拭する場合もある。好みの湯加減への対応や、入浴剤の使用、足マットや椅子タオルは利用者ごとに交換し衛生管理に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況や日中の休息の希望に合わせて昼夜逆転にならない様対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携している調剤薬局の薬剤師が対応し毎日の提供準備のセット、確認、提供者は責任をもって対応し薬情報はファイリングしていつでも確認出来るよう努めている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、出来る事関わりを持ちにやりがいを感じ気分転換されるよう促し参加して頂き 季節の行事も楽しんで頂けるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的には実施していないがドライブや花見や紅葉見学では飲食(ソフトクリーム等)美味しく召し上がって喜んで頂けるよう支援している	天候の良い時期は事業所周辺の散歩や外気浴、外掃除、花壇作り、プランターの手入れや草取りなどに出ている。冬場に雪かきをする利用者もいる。金太郎池での桜見学や演習林の紅葉見学時には鹿にも出会い喜ばれた。ドライブがてら馴染みの店のアイスクリームを食べたりと楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品や床屋代、医療費はホームの立替金を使用しているがパン販売に月2回程来てもらい好みの物を買って物している感覚が味わえるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等御本人が希望されたと時には都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットのホワイトボードを利用し季節を感じられる様な環境作りを工夫している	玄関は趣のある絵や飾り物など温かみがあり、手洗いコーナーも設置している。リビングとダイニングは一体となった広く明るい造りで、食席以外にソファコーナーを設け、観葉植物や壁面ホワイトボードに季節の装飾を施し、カレンダーの他に日めくりもある。トイレは前傾姿勢保持可能な補助具も設置している。エアコンや空気清浄機、加湿器等で空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや食席でテレビを観たりおしゃべりを楽しまれたりレクリエーションで軽い運動をされたり自由に居室に戻り過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの備え付けの物や御家族が準備された物や自身の馴染みの物で本人状況に合わせた危険の無い環境作りの工夫をしている	全居室にカメラモニター付きナースコールや介護用ベッド・マット、クローゼット、床暖房等の備え付けがある。使い慣れた調度品や愛着のある品々が持ち込まれ、テレビや本、DVDの視聴、タブレットで趣味の将棋を自室で楽しんでいる利用者もいる。本人の暮らしやすさや思い思いに過ごせる居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口や戸口のわかりやすい目印を工夫し迷わない動きが出来るよう心掛けている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	093600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 2階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	令和7年3月12日	評価結果市町村受理日	令和7年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・御家族や穂本人の意向や要望や本人状況に合わせたプランを立案し適切なサービスが提供出来るよう心掛けている
- ・季節や馴染みの行事や誕生日等のイベントは手作りにこだわって取り組んでいる
- ・誕生日では御本人や御家族に好みの食事やケーキの種類を選んで頂き昼食のメニューを変更し手作りや出前等喜んで頂けるよう工夫している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットと玄関前エレベーターのドア上に理念を掲示し月初めの目標に職員が交代で理念の文言を組み込み周知している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会長や東地域包括支援センター、介護福祉課の職員や御家族に参加して頂き交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会長や東地域包括支援センター、介護福祉課の職員や御家族に参加して頂き交流している 東地域包括センターの地域会議のケア会議に参加の意見交換している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や事故報告、避難訓練内容の報告、年間行事等を協議事項とし御意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区分変更や更新等での認定調査や運営推進会議に参加して頂き協力関係が築けるよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3カ月に1回の担当者会議、6カ月に1回の全職員対象の研修(事例検討)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り御本人や御家族の思いに沿ったケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回の担当者会議6カ月に1回の全職員対象の研修(事例検討)を実施している カンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要としている入居者がいない為積極的に取り組んでいない 今後必要に合わせ対応できるよう努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に口頭説明及び契約書を持ち帰り御読み頂くよう御伝えし同意頂いている 入居時のリスク説明も行い同意頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン変更時には必ず御本人や御家族に意向を伺いプランに反映させ面会時や電話でお話し出来る時には本人状況を御説明し意見や意向を伺い日頃のケアや運営に取り組めるよう努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案時には担当職員や他職員の意見を計画作成担当者が取りまとめ会議参加者で検討し各ユニットで共有している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心に繋がるよう資格所得等適切に取り組めるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の適した職員に適した課題で研修に取り組めるような設定をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者は電話やオンライン研修等交流する機会があり取り組んでいるが他職員は積極的に参加出来ていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ず御本人や御家族と面談し各自に要望や意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人や御家族の不安や困り事を共有しながら御本人のサポートが出来るよう心掛け 面会時や電話等でも御相談頂けるよ努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向、要望を伺い御本人や御家族の双方が納得されるよう提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事には取り組んで頂き一方的ではなく共に考え提案し自己決定の場面が出来るよう心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下や認知状況での危険リスク等事前に御家族の精神的負担が軽減されるよう心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的な取り組みは出来ていないが面会時は居室で15分程制限の中過ごして頂き電話の取次ぎやお手紙の内容を伝える等楽しい時間が感じられるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩さずお互い無理せず円滑な関係が保てるよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必要に合わせ退去先施設の支援会議に参加し御家族に不安の無いよう相談、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを尊重し自己決定を促し希望の把握が出来るよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者担当者や御家族から自宅での生活状況を伺い出来ることは日々の生活に組み込めるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のアセスメントや会話、新進状況を要観察し都度変化に合わせたケアが行えるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の意見を伺い現心身状況に合わせたケアを立案出来るようカンファレンス会議や担当者会議で意見交換し介護計画作成出来るよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や業務日誌、日々の申し送りや申し送りノート等を活用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度本人状況に合わせたサービスが出来るよう立案し取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的には取り組めていないが機会があれば検討していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診対応を行い検査結果や服薬変更等御家族に報告し月2回の訪問看護にも相談し指示を仰いでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療機関や調剤薬局の薬剤師と相談し合える体制であり情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書や入院情報書類を作成し本人状況を共有し退院時にも本人状況説明に御家族に了承頂いて参加させて頂き相談出来る環境作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者時契約の際に重篤化した時の説明を行い日々の生活の中での体調の変化や対応、予測される状況もお伝えし事業所で出来る対応を御説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、火災訓練を入居者と共に実施している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いに反した声掛けをしない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損なわない対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で御本人の思いや意向を伺い自己決定出来るよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務体制によって職員側の動きになっている様子も見られている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の意向も伺いながら出来ることはしてもい衣類や整容に清潔感が感じられるよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや下準備や茶わん拭きや後片付け掃除等に出来る方には参加して頂き関わりを楽しみや、やしがいが感じられるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てている個々の摂取状況に合わせた形態や盛り付けや味付けで摂取されやすいよう工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している 自身で出来る方にはしてもらい 仕上げ磨きが必要な方や歯磨きが難しい方や口腔スポンジを使用する等して残渣物が口腔内に残らない様支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本1日1度はトイレに座っての排泄を促しての対応を心掛け尿意便意の確認を行い排泄誘導、排泄状況確認を記録し排泄間隔に把握に務めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整を行うと共に牛乳やヨーグルトや乳飲料を提供する等し、腹圧の掛けられない入居者は腹部や肛門まわりのマッサージを実施する等し対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが御本人に入浴である事伝え強い拒否が見られた時には曜日を変更し入浴調整する等して週2回を入浴して頂くよう工夫している無理せず清拭での対応も行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況や日中の休息の希望に合わせて昼夜逆転にならない様対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携している調剤薬局の薬剤師が対応し毎日の提供準備のセット、確認、提供者は責任をもって対応し薬情はファイリングしていつでも確認出来るよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、出来る事関わりを持ちにやりがいを感じ気分転換されるよう促し参加して頂き 季節の行事も楽しんで頂けるよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的には実施していないがドライブや花見や紅葉見学では飲食(ソフトクリーム等)美味しく召し上がって喜んで頂けるよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品や床屋代、医療費はホームの立替金を使用しているがパン販売に月2回程来てもらい好みの物を買って物している感覚が味わえるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等御本人が希望されたと時には都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットのホワイトボードを利用し季節を感じられる様な環境作りを工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや食席でテレビを観たりおしゃべりを楽しんだりレクリエーションで軽い運動をされたり自由に居室に戻り過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの備え付けの物や御家族が準備された物や自身の馴染みの物で本人状況に合わせた危険の無い環境作りの工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口や戸口のわかりやすい目印を工夫し迷わない動きが出来るよう心掛けている		